

令和6年12月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問） エssenシャルワークの重要性に関する社会的認識の涵養について

エssenシャルワークの重要性について、日本全体の社会的認識を涵養するためには、社会全体への啓発と子ども達への教育が重要と考える。

エssenシャルワークへの認識を深めるために、どのように社会全体への啓発を行うのか、また子ども達一人一人に働くことの意義や社会に役立つことの大切さについて、初等中等教育の段階からのキャリア教育の中でどのように育てていくのか、教育長の見解を伺う。

（答）

エssenシャルワークは、コロナ禍や大規模災害発生時など、危機的な状況下においても社会の基盤を維持するために現場に従事するなど、人々の生活を支える必要不可欠な仕事であると認識をしております。

県におきましても、例えば、介護、建設業、農林水産業などの様々な業種において、その仕事を体験し、学ぶことを目的としたイベントの開催などを通じまして県民の皆様がエssenシャルワークに触れる機会の充実に取り組むなど、各業種に関する啓発に努めているところでございます。

教育の分野におきましても、エssenシャルワークを含め、様々な仕事について、児童生徒が、働くことの意義や、将来の生き方について考えることは重要であり、各学校におきましては、教科等全ての教育活動を通して、キャリア教育に取り組んでおります。

例えば、小学校におきましては、社会科で、飲み水や電気などを供給する仕事が地域の人々の、健康で住みよい暮らしを支えていることを学んだり、道徳科で、看護師の仕事を扱った教材を通して、働くことが、社会生活を支えるものであることに気付き、考えを深めたりしております。

中学校におきましては、社会科で、どの仕事も社会の維持に不可欠であることや、働くことで社会に参加し、社会全体に貢献していることなどを学ぶことに加え、職場体験活動におきまして、直接働く人と接することにより、社会を支える仕事の重要性や、働くことの意義を理解し、自分の将来について考えを深めております。

高等学校におきましては、企業などへのインターンシップなどにおきまし

て、自らの在り方・生き方や、自らと地域や社会との関わりについて考えることにより、生徒が、社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を身に付けられるように取り組んでいるところでございます。

引き続き、エッセンシャルワークなど様々な業種に関する啓発に取り組むとともに、小学校から高等学校までのそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育を進め、現実の社会に触れ、自己を振り返り、働くことの意義や社会に役立つことの大切さなどを考える機会の一層の充実を図ってまいります。